

パーキンソン病ブラッシュアップ通信 2022年3月

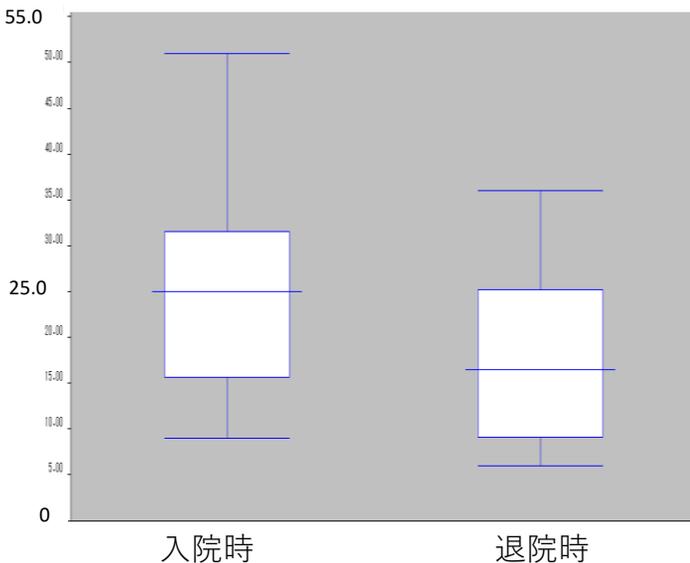


ブラッシュアップ入院では、LSVT LOUD®やLSVT BIGのプログラムを用いて、4週間、集中的なリハビリテーションを提供します。LSVTプログラムは国立衛生研究所からの資金提供により過去20年以上にわたって開発が続けられました。そして科学的研究が行われ、パーキンソン病患者さんの身体機能が改善したことが報告されています。

当院では、ブラッシュアップ入院に関わるリハビリテーションスタッフ全員がLSVTの資格を取得しています。（2022年3月現在）
質の高いリハビリテーションが個別に提供できるように4週間のスケジュールを組んでいます。



LSVT BIG 結果（患者数:12名）：MDS-UPDRS 運動症状



MDS-UPDRSはパーキンソン病の症状がどの程度現れているかを数値化したものです。まだまだ症例数が少ないですが、4週間のブラッシュアップ入院で運動症状が軽減していることがわかります。

危険率： $p=0.0039$

両側検定：有意水準 1% 有意差あり
効果量 $r=0.780256$

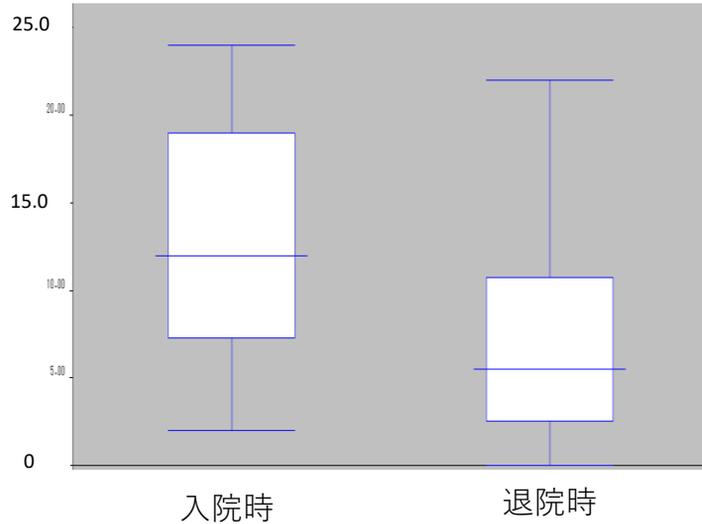
有意水準 5% の場合の検出力： $power \leq 0.8$

参考資料

集中的なリハビリテーションが運動機能の低下を遅らせる可能性があり、薬物治療を増やす必要性を遅らせる可能性がある。 Giuseppe Frazzitta et al. *Neurorehabil Neural Repair*. 2015 Feb.

有酸素運動が体力を改善し、投薬を中止した状態で運動症状（MDS-UPDRSの運動part）を軽減する。 Sabine Schootemeijer et al. *Neurotherapeutics*. 2020 Oct.

LSVT BIG結果（患者数：12名）：MDS-UPDRS 非運動症状



集中的なリハビリテーションで、パーキンソン病特有のうつ症状や不安、疲労などの非運動症状にも改善がみられました。

危険率： $p=0.0015$

両側検定：有意水準1%有意差あり
効果量 $r=0.840801$

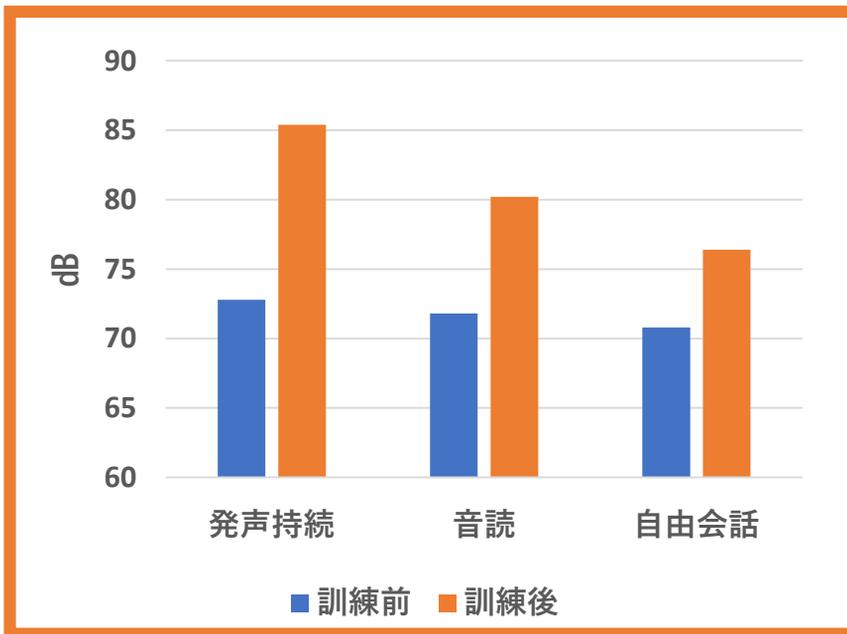
有意水準5%の場合の検出力： $power < 0.8$

参考資料

うつ、不安スコアは運動機能とともに改善することを示す。

Khshayara Dashtipour et al. Parkinsons Dis.2015

LSVTラウド結果（患者数：5名）：声の大きさの比較



発声持続時間、音読、自由会話すべてにおいて、リハビリテーション後は大きな声が獲得できました。



※ブラッシュアップ入院のパンフレットが必要な方は地域医療連携室までご連絡下さい。



お問い合わせ先

高松医療センター 地域医療連携室

TEL：087-841-2162

ブラッシュアップ入院のパンフレットはこちら

